

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 龍美
施設名	ハートの森保育園
報告者（役職）	原崎 三千代（園長）
住所・連絡先	横浜市戸塚区品濃町 1024
	☎ 045-825-8080
	E-mail heart-info@ryobi.or.jp

○タイトル（保育計画）

- | |
|--|
| 1. 五感を育てる保育への取り組み
2. プロジェクト・アプローチを取り入れた保育への取り組み |
|--|

○主な助成備品

音の出る玩具、大型ソフトブロック、ほふく遊具、トンネル、ライトテーブル等

1. 保育計画策定の目的

私たち社会福祉法人龍美では、世界との繋がりがますます強くなっていくこれからの時代を見据えて、今までの価値観やルールでものを考えるのではなく、自らが自らの意志で考え、子どもたちが未来を創り出していくことができるようにという願いを込めて保育をしています。

龍美の考える子どもたちの将来の姿とは、

- ・ 自主性を持ち生きていくことができる人
 - ・ 愛情を持ち人と接することができる人
- であることが世界の中で自分らしく生きていくことに繋がると考えています。

そのために日々の保育の中では以下を大切にしています。

- 愛されていると実感できる保育
- けじめとしつけを優しく教える保育
- 子どもたちの主体性を尊重する保育
- 適切な保育環境での保育
- プロジェクト・アプローチを取り入れた保育
- 五感を育てる保育

その中でも今回は、**プロジェクト・アプローチを取り入れた保育** **五感を育てる保育**をするための備品を購入させていただくことで、子どもたちの日々の保育の充実を図らせていただきました。

2. 具体的な実施内容

① 五感を育てる保育への取り組み

リズム遊びやわらべうただけではなく、さらに積極的に音に触れられる機会を増やすために音の出る木の玩具を取り入れ、いろいろな音を感じたり音の違いを楽しみながら耳を育てる体験ができるように環境を設定しました。

発達に応じたバランスのとれた運動ができるよう、0、1歳児はほふく遊具、2歳児は大型のソフトブロックを室内に設定しました。3～5歳児は跳び箱や平均台を購入し、外部講師による体操教室を取り入れ、保育者目線で気づきにくい体を動かすときのポイントやコツをわかりやすいように伝え、子どもたちができたときの達成感を味わえるようにして、体を動かす喜びを感じることができるようになりました。

② プロジェクト・アプローチを取り入れた保育への取り組み

プロジェクト保育とは、子どもたちの“したい！”“しりたい！”などの興味関心や探求心を保育活動に活かし、子どもたちが興味を持ったことや不思議に思ったことをテーマに、子ども同士が協調して調べたり話し合ったりしながら活動する保育手法です。今回は“ライトテーブル”を実際に2歳児保育室に配置し、子どもたちの様子を追ってみました。幼児になると探求心が強くなり自ら友だちと協力して様々な活動を広げていきますが、2歳児はそれぞれの「今、その遊びをしたい」という主張が強く、こだわる年齢なので、それぞれの遊びの展開が見られました。遊び方が決まっていないうライトテーブルを前に、子どもたちが使い方を考えて遊びこむ様子から保育者にもたくさんの気づきがありました。

3. その成果と評価

① 五感を育てる保育

音の出る玩具を乳児の環境に配置したことで、振ったり叩いたりすることで音が出ることに気づいた子どもたちが、自ら手に取って振ったり叩いたり繰り返していました。

今後は、さらに音を楽しめるような様々な音色の違いを知り、幼児では音を合わせて合奏する機会を作っていきたいと考えています。

室内でも体を動かすことのできる、ほふく遊具や大型ソフトブロック、トンネルを購入させていただいたことで、雨天時の活動の幅も一気に広がりました。そのおかげで発達に応じた運動ができるだけでなく、天候に左右されずに生活のリズムを整えていくことができました。また、幼児の体操教室用の備品を購入し毎週体操教室を行いました。全員参加しなければならないという考え方ではなく、初めてのことに抵抗がある子はみんなの参加する姿を見ることで参加したいと思ったら参加できるように配慮しました。参加する子どもたちが楽しく体を動かし終わった後の爽快な様子から、今では全員が参加するようになりました。

② プロジェクト・アプローチを取り入れた保育

2歳児のクラスにライトテーブルを設置することでどのように活動が広がっていくのか様子を追ってみました。2歳児の発想とそれぞれの主張に耳を傾けながら進めていくことで、それぞれの遊びの展開が見られました。

職員が用意したセロファンを
ライトテーブルにのせてみました



つぎは、大好きな海の生き物を
泳がせてみたい！



水も入れてみよう！



お魚だけではなくて
えのぐもいれてみよう！



色水をペットボトルに入れて、おままごとのジュース
にもなりました！



光と色の世界を広げられるようにと保育者がセロファンを用意することから、ライトテーブルでの活動が始まりました。そこから、青いセロファンをひいて海に見立て、興味のある海の生き物を「泳がせてみたい！」ということで、まずはセロファン上の海で魚などを泳がせました。すると、「水を入れて泳がせたい！」と声上がり、実際に水を入れてみると・・・色水遊びやジュース作りに繋がり、様々な遊びの広がりがありました。こうした活動を通して保育者は、

- ・一人ひとりの気持ちを丁寧に受け止めること
- ・子どもと保育者が楽しいことを共有すること、を大切にしたいと改めて感じました。

ハートの森保育園は3～5歳児の異年齢保育なので、2歳の間に保育者や友だちと一緒に楽しいことを経験し、保育者に自分を受け止め認めてもらうことで自信となって幼児以降に大きな力を発揮できるようサポートしていきたいと思います。

4. 今後の課題と展望

開園3年目の新園であるため、手作り玩具を多く取り入れたり自然を生かしたりして保育に取り組んで参りました。しかし、保育材料や体操器具の購入が難しく苦慮する部分も多くありました。今回助成備品を購入させていただいたお蔭で3年目とは思えない保育活動の広がりにつなげることができました。来年以降は、環境整備だけではなく子どもたち一人ひとりの発達や遊びに合わせて助成備品を取り入れより深く遊びこめる工夫をしていきたいと思っております。

そのためにこれからも一人ひとりの気持ちに寄り添い、それぞれの表現を丁寧に受け止めて、一緒にたくさんの体験をしていきたいです。とても有意義な助成をいただき感謝しております。御社の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

以上